

2010年度

科目名	文章表現			コード	13110
担当教員	高橋 圭一				
配当	日文1			コード	13110
開期	前期	講時	月曜日3限	単位数	2
授業テーマ	わかりやすい文章を書く。				
目的と概要	文章を手書きする機会こそ減ってきたものの、文章作成能力の重要性はむしろ増してきている。日本語日本文学科の卒業生であれば、文章が書けることを期待される向きも多いだろう。この講義では現代の社会で要求される、一読して意味のよくわかる、理解しやすい文章を書く能力を養成する。「名文」を書かせることはできないが、「悪文」を書かないようにする指導は可能である。				
成績評価法	課題の提出状況(40%)、課題に取り組む姿勢(40%)、出席(20%)で総合的に評価する。				
テキスト	毎回プリントを配布する。				
参考書	ロングセラー 第三版悪文／岩淵悦太郎／日本評論社 はそれだけの値打ちがある。				
履修に当たっての注意・助言	文章を書くのは大変なことである。書く前に十分熟考した上で書き始め、書きつつ修正を施し、書き終えた後には何度も推敲する。時間のかかるものと覚悟すること。				
講義計画					
<p>短い講義と実践練習をしたのち、提示されたテーマで文章を書く。二回目以降は前回の課題に対するレポートのいくつかを名前は伏せて取り上げる。ほめるところは大いに褒め、注意すべき点・修正すべき点を指摘する。以下の計画は講義と実践練習のものである。テーマは講義中に発表する。先にまとめて掲げることはしない。</p> <p>第1回 今回のみ「名文」を読む。幸田露伴の文章である。ただし、露伴にならえ、と言うわけではない。 第2回 まずは、書きやすいテーマで文章を書く。 第3回 原稿用紙の使い方。紙は使わなくなっても知っておいた方がいいことはある。 第4回 文章に必要な要素(5W1H)を確認する。 第5回 文章の要旨を短くまとめる。 第6回 続き。そのコツをつかむ。 第7回 文章の役割を理解する。問題提起の文、解答する文、など。 第8回 続き。自分の文章に生かす。 第9回 文脈を捉える。 第10回 わかりやすく誤解のない文章を書く。 第11回 続き。悪文の代表である、長すぎる文を短く切る。 第12回 意見文を書く。まず「事実」を観察し、報告する。 第13回 続き。「事実」に対する自分の意見を書く。 第14回 続き。自分の意見の根拠を示す。 第15回 続き。自分と異なる意見に対して反論する。</p>					